

# 整形外科

責任者: 嶋村 正 教授

## 一般目標(GIO):

整形外科(運動器)疾患を有する患者さんに対して正しく対応・処置するために、基本的医療面接・診察・検査・診断・治療法とその原理・原則を正しく理解して、各種運動器疾患にいかに応用・対処していくかを修得する。

## 行動目標(SBOs):

一般目標に到達するために、以下の事項を行動目標とする。

- \* 1. 外来・病棟で直接患者さんに接して、その対話の中から診断上必要な事項(医療面接:主訴・現傷病の経過、合併症、既往歴、現存病、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴など)について、疾患を想起しながら的確な病歴の記載を実施する。
- \* 2. 外来・病棟の診察を見学・実施し、その意味を理解して必要な諸検査を順序だてて計画する。
- \* 3. 画像検査(X線、CT、MRI、ECHO、骨シンチ、各種造影など)の所見と現傷病との関係を説明する。
- \* 4. 処置・検査・手術などの基本的医行為を実施する。
- \* 5. 患者さんの局所的・全身的症状変化を経時的に記録する。
- \* 6. 加齢的変性変化に起因する疾患の病態と治療の概念を述べる。
- \* 7. 患者さん、家族への応接(言葉・態度・服装・整容)を実施する。
- \* 8. コメディカルスタッフとの協調を適切に実施する。
- \* 9. ケースプレゼンテーションを適切に実施する。

## 特に留意すべき注意事項:

担当教員によるオリエンテーションがあるので前週の金曜日午後5時に医局に集合し、医局秘書から実習の資料を各自受け取ること(実習用の資料は実習の前に必ず熟読しておくこと。希望があればこれ以前でも渡します)。

なお、実習期間が極めて限られているので、実習が始まる前に以下の事項は必ず復習・修得しておくこと。

1. 整形外科的医療面接法、診察法
  - (1) スポーツ歴、職業歴、外傷歴
  - (2) 歩行・姿勢・肢位とその異常(跛行・変形など)
  - (3) 徒手筋力測定法(MMT)とその評価
  - (4) 四肢長・周径長、関節可動域(ROM)測定法とその評価
  - (5) 神経学的診察法(表在・深部反射、病的反射、表在・深部感覚、MMTなど)
  - (6) 各種の症状誘発・寛解手技(○○○サイン、○○○テスト、○○○徴候など)
2. 情報(医療面接・診察・検査)の整理と判読の仕方:診断手順・経過
3. 整形外科的治療法の概要(保存療法、手術療法、運動器リハビリテーションなど)

4. 運動器(骨・関節・靭帯、筋・腱・腱鞘、脊髄・馬尾・末梢神経、血管系)の構造と機能
5. 開放創の処置手順
6. 骨折の治癒過程
7. 関節の変性過程
8. 神経障害の病態
9. 消毒・滅菌の理解、手洗い・ガウンテクニックの修得

## 第5学年臨床実習スケジュール [整形外科]

### [第1週]

指導医師名：①嶋村正教授 ②山崎健准教授 ③一戸貞文准教授 ④古町克郎講師 ⑤西田淳講師 ⑥田島克巳講師 ⑦村上秀樹講師 ⑧安藤貴信助教  
 ⑨青木裕助教 ⑩田島吾郎助教 ⑪亀井陽一助教 ⑫田島育郎助教 ⑬吉田知史助教 ⑭後藤実助教 ⑮本田剛久助教 ⑯丸山盛貴助教 ⑰徳永高也助教  
 ⑱徳永勢二助教 ⑲内村瑠里子助教 ⑳室岡玄洋非常勤講師

曜	1時限	2時限	3時限	4時限
月	担当指導医・病棟スタッフ紹介、新患外来実習 [場所] [病棟、外来] [指導医] ③④⑫	新患外来実習 [外来] ①③④⑫	担当患者回診(担当症例医療面接) [病棟] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	骨・関節 X線検討会、アフタヌーン・レクチャー、当日レポート [外来、医局] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
火	モーニング・レポート、手術実習、リハビリ外来・リウマチ外来 [場所] [医局、手術室、外来] [指導医] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	手術実習、リハビリ外来・リウマチ外来 [手術室、外来] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	担当症例検討(画像診断・治療計画)、手術実習・検査実習、担当患者回診 [手術室・病棟] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳	担当症例検討(画像診断・治療計画)、手術実習・検査実習、担当患者回診、当日レポート [手術室・病棟、医局、ゼミ室] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳
水	症例検討会・担当症例プレゼン(診断・治療方針・予後・合併症のまとめ)、総回診(担当症例提示) [ゼミ室、病棟] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	担当症例検討(診断・治療方針・予後・合併症のまとめ) [病棟] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	理学療法・リハビリテーション見学・手術実習・検査実習、担当患者回診 [手術室・病棟] ④⑦⑬⑮⑯	理学療法・リハビリテーション見学・手術実習・検査実習、担当患者回診、当日レポート [手術室・病棟、医局] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
木	モーニング・レポート、手術・外来実習 [場所] [医局、手術室・外来] [指導医] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	手術・外来実習 [手術室・外来] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	担当患者回診、バズ・セッション(BS)(各担当症例の問題点に関してそれぞれ実習生間で検討し、BS担当医のアドバイスの元に問題点を解決してゆく) [病棟、ゼミ室] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	担当患者回診、バズ・セッション(BS)(各担当症例の問題点に関してそれぞれ実習生間で検討し、BS担当医のアドバイスの元に問題点を解決してゆく)、当日レポート [ゼミ室、医局] ②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
金	カルテ回診・症例提示、モーニング・レポート、手術・外来実習 [場所] [医局、手術室・外来] [指導医] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	手術・外来実習 [手術室・外来] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	手術・外来実習 [手術室・外来] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳	実習報告・評価(担当症例発表、関連事項口頭試問、レポート提出) [ゼミ室] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
治療用機器	1. 外固定材(各種スプリント、キャスト、サポーター、ブレイス、テープ、創外固定器)	多数	固定、除痛
治療用機器	2. 介達牽引器具・装置	多数	除痛、固定、整復、ストレッチング
治療用機器	3. 直達牽引器具・装置	多数	除痛、整復、固定
治療用機器	4. 理学療法(室)機器 (1) 頸椎・腰椎牽引装置	各3台	除痛、ストレッチング
治療用機器	(2) 超音波装置	3台	除痛、血行改善
治療用機器	(3) 低周波装置	3台	除痛、血行改善、神経麻痺改善
治療用機器	(4) 肩用輪転装置	1台	肩関節可動域改善
治療用機器	(5) パラフィン浴装置	1台	除痛、血行改善、拘縮改善
治療用機器	(6) SSP 装置	1台	除痛、血流改善
治療用機器	5. リハビリテーション(室)装置 (1) ティルトテーブル	1台	起立運動補助
治療用機器	(2) 平行棒	2台	歩行運動補助
診断・治療用機器	(3) トレッドミル	2台	神経・呼吸・循環器系機能強化・評価
診断・治療用機器	(4) 固定自転車	1台	筋力強化、呼吸・循環器系機能強化・評価
治療用機器	(5) バイブラマス	1台	除痛、血流改善、拘縮改善
治療用機器	(6) ホットパック	1台	除痛、血流改善、拘縮改善
治療用機器	(7) 下肢他動矯正具	1台	拘縮改善
治療用機器	6. 連続他動関節運動(CPM)装置	数台	術後関節軟骨障害予防・関節可動域改善
診断・治療用機器	7. 関節鏡	3台	関節内障害評価・治療
診断用機械	8. 筋電計	2台	神経・筋疾患評価
治療用機器	9. 自己血回収装置	1台	自己血輸血
診断用機械	10. 脊髄モニタリング装置	1台	術中脊髄モニタリング
診断用機械	11. 術中透視装置(イメージ)	1台	骨・関節透視
治療用機器	12. 手術用顕微鏡	1台	マイクロサージャリー
診断用機械	13. 超音波画像装置(ECHO)	1台	軟部組織・関節超音波画像評価の指導
治療用機器	14. 下肢静脈還流促進装置	数台	下肢静脈血栓予防
治療用機器	15. 関節鏡視下電気手術器械	1台	臨床実習(鏡視下手術デモ)(5・6年共通)
治療用機器	16. コードレスバイク(コードレスエルゴサイザー)	1台	臨床実習(運動器リハビリ)(5・6年共通)
視聴覚用機械	17. デジタル複合機(irc4580F)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	18. ノートPC(CL604IW TYPE-M)	1台	学生講義・試験
視聴覚用機械	19. ノートPC(レッツノート CF-T7)	1台	学生講義・試験
視聴覚用機械	20. 外付HD(2.0GH2 Intel Core 2 Duo)	1台	学生講義・試験
視聴覚用機械	21. ビデオカメラ(GZ-MG330)	1台	学生講義
視聴覚用機械	22. ハソコン(Mac Book PRO)	1台	学生講義・試験
視聴覚用機械	23. ハソコン(FMVLXA70D)	1台	学生講義・試験
実習用機械	24. スーパーガリアンルーペとフレーム標準セット (KMV-SPG3034)	1セット	学生講義・試験
実習用機械	25. ハソコンXLルーペとフレーム標準セット (KMV-P4542)	1セット	学生講義・試験

## **成績評価方法**

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 出席点:20 点
2. 実習評価 1(教員による学生評価シート I):20 点
3. 実習評価 2(教員による学生評価シートⅡ、外来での医療面接、総回診での症例提示、症例発表会、患者さんからの評価):20 点
4. 国家試験問題形式の口頭試問:40 点